読者の広場

gakugei@nnn.co.jp

「やまびこ」は意見やほのぼの話題などで400字以内、「散歩道」は随想などで700字以内、「私の視点」は時事評論などで700字以内。「私の作品」はイラストや写真などで、はがきや写真にひと言添えて送ってください。採否の問い合わせ、応募された原稿や写真の返却、匿名、他紙との二重投稿はお受けできません。文章を添削する場合があります。採用分には図書カードを贈ります。原稿には必ず郵便番号、住所、氏名、年齢、職業（学年）、電話番号を明記してください。

郵送〒680-8688 新日本海新聞社「読者の広場」係へ　メール gakugei@nnn.co.jp

潮流

毎月、仕事の関係で所属する経済クラブの例会に東京出張する。会場の霞が関ビルの窓から国会議事堂がよく見える。CO_2削減と地球温暖化防止のためか、周辺ビルの屋上には緑が多い。

地球温暖化は、人間が日々排出する温室効果ガスが主な原因の9割と言われている。CO_2は寿命が長く100年間も地球に悪影響を与えるそうだ。このままでは温暖化で海面が上昇し地球規模で島国が海没、陸地面積減少で生態系も変わり、食糧不足・大規模な飢餓の発生も予測される。

異常気象で自然災害も多発、1990年代は年間約400億ドルもの経済的打撃を受けたとのデータもある。

ところで、日本の農業は高齢化が進み就業人口192万人の平均年齢は66・8歳と高齢だ。今後20年間で現在65歳以上の農業者125万人がリタイアと想定されている。人手不足や後継者問題、経済的な課題を抱える農家が多い中、新しい収益源として「ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電事業）」に注目が集まっている。農地で太陽光発電とパネル下部で農業を維持、太陽光発電の収入も得る仕組みだ。国内の農地面積は関東平野の約2・7倍に相当する450万㌶の広さがあるが、東京都面積の2倍相当の約42・3万㌶が「耕作放棄地」だ。これらの問題を解決するためにも、耕作放棄地を有効活用し自然エネルギーの活用と農業の共存を図る取り組みは重要だ。

太陽光事業を始めてから農地での太陽光発電の相談を多くいただく。ある日、芝栽培の農家から「高齢になり芝の生産を続けることが難しくなった。しかし農地を放棄すれば荒廃し、周囲の農家に迷惑をかけることになる。何とか太陽光発電に利用できないか」という相談だった。これを機にソーラーシェアリングを開始した。芝は、屋上緑化に最適な「常緑キリンソウ」の栽培だ。もともと日本にあった植物で、冬に枯れず年間を通して緑色を保つようフジタパラダイスパーク（鳥取県岩美町）が品種改良した。ヒートアイランド現象（都心部の気温が郊外に比べて高くなる現象）の緩和目的に、屋上緑化として常緑キリンソウの出荷量は年々増加している。昨今の研究で原発の汚染物質セシウムを吸収しないことが判明し、福島汚染土壌の緑化への期待も高まってきている。

ソーラーシェアリングは個人農家・農業法人にとっても新たな収入を得られる手段になる他、今後はハウス栽培などと組み合わせた電力自家消費型の仕組みも広がるだろう。また、これまで活用の方策が見いだされなかった耕作放棄地を再生する動機付けにもなり得る。地方創生が大きな政策課題として掲げられる中で、ソーラーシェアリングの普及は単に農業の活性化というだけでなく、農地をエネルギーと食料という社会に不可欠な資源の両方を生み出す場所に変えていくことになる。それは、エネルギー自給率と食料自給率の向上という、わが国の抱える大きな問題の解決策の一つとなる。

（湯梨浜町）

エナテクス常務取締役境港支社長　**磯江　公博**

新しい農業、シェアリング、ソーラーの効果

ひばこ

読者の目

「休息」

「オオソリハシシギ」（左）と「ダイゼン」（右）の種類の違う2羽が仲良く並んで休んでおりました。

相見　和史（鳥取市雲山、72歳）

もうちょっと人間させてよ

種　敏雄（米子市上後藤、74歳）

長い入院生活を経て、やっと退院。脳梗塞を2回やった。退院してびっくり。庭や畑は草だらけ。よし今度はこれと闘おう一歩けないけど這えるんだ。

リハビリを兼ねて草との闘いが始まった。困った。ごみ置き場まで持って行けない。悪いけど燃やそう。北風の日なら煙もわが家しか来ない。ちょっとずつ燃やした。そしたらすぐ警察が来た。「草を焼いたらダメですよ。今回は始末書ですますが、今後は絶対ダメです」

草は取れないか。では花でも楽しむか。カトレヤを3鉢買った。そしたら温室から翌日1鉢なくなっている。昔から〝花泥棒に悪人はいない〟という。きれいな花はだれもが好きなんだ。

では散歩でもするか。狭い道を選んで歩行器での散歩を始めた。車が来た。やっと避けれた。「すみません」「バカタレガー」。でもう一度「ごめんなさい」。散歩もダメか。

でも北朝鮮問題もこれからどうなるか、それを見届けたい。幸い私には本と日本海新聞という昔からの良き友だちがいる。死ぬほど読書。これと付き合おう。しかし、この国、障害者には暮らしにくい。速やかに人間終える事のみか。残念、もうちょっとだけ人間させてよ！

やまびこ

放哉の星取県ぜひ行きたい

山下さやか（福井市灯明寺、36歳）

インターネット上のニュースから鳥取県が「星取県」を名乗っていることを知り、なんて魅力的な県なのだろうと、最近「星取県」のホームページを興味深く拝見しています。

特に度肝を抜かれたのが、星取県フォトコンテストで受賞した星空写真の数々。天の川はくっきりと見え、写真から空気が澄んでいることを感じ、砂丘からの写真は、まるで自分が宇宙の世界に溶け込んでいくかのような幻想的な気持ちになります。

正直なところ、私は星について詳しい知識はありません。しかし、俳句や短歌より、特に鳥名な俳人「の大ファン放哉の自由

市場の「わったいな」で見かけました。私は「オニユズ」と言っていますが、「獅子ユズ」もいいですね。

荒西　高子（鳥取市宮長）

韓国語頭の働

古林　邦

米積、70歳

50歳になった韓国語の勉強した。単語をノートに書いて、暇さえぶつぶつ復習し

朝は、J務先までのながら韓国継した。「自転車が来ているのは

う。女子高か。いえ、です」など

するとあうも自分はているのでと思うよう難しい本をるのであるんと浮かん

きれいな花いく

重宝だ想定

骨董は観察

川柳

橋崎名人に松田さんが挑戦

26日に第45期鳥取県アマ将棋名人戦3番勝負が開催される。橋崎卓万名人（湯梨浜町）に松田隆さん（鳥取市）が挑戦する。注目の勝負の行方を占ってみたい。

昨年史上最年少の名人となった橋崎さん。アマ名人県予選は決勝で負けたものの、北島国造杯優勝や赤旗名人戦県代表など、今年も活躍している。

一方、松田さんは近年大会参加が減っており、本棋戦とアマ名人戦県予選ぐらいしか参加されない。そのため今の調子などは不透明だ。

しかし過去35期も名人の座にあり、3番勝負進出は実に40回目となる。この棋戦に3番勝負制が導入されたのは第4期なので、今期で42回目。つまり3番勝負進出を逃したのはわずか2回ということになる。この3番勝負の戦い方を誰よりも熟知している人であることは疑いようもない。

この3番勝負は名人の所へ挑戦者が出向くことになっており、今期は湯梨浜町在住の橋崎さんが名人のため、初の湯梨浜開催となった。快く会場を提供していただいた望湖楼の皆さまには心よりお礼申し上げたい。

素晴らしい会場にふさわしい、熱戦が繰り広げられることを期待したい。

森田　宏敏（日本将棋連盟鳥取支部幹事）

あす県アマ将棋名人戦3番勝負

◇第45期鳥取県アマ将棋名人戦3番勝負は26日午前10時から、湯梨浜町はわい温泉の望湖楼で。開会式の後、同10時半ごろから第1なった時はさらに休憩を挟んで第3局となる。

※観戦は自由ですが、観戦マナーは必ず守っていただきますようお願いします。携